

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数	11
1. 理念の共有		2
2. 地域との支えあい		1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用		3
4. 理念を実践するための体制		3
5. 人材の育成と支援		2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援		2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応		1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援		1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント		6
1. 一人ひとりの把握		1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し		2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援		1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働		2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援		11
1. その人らしい暮らしの支援		9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり		2
合計		30

事業所番号	2793100054
法人名	株式会社 カームネスライフ
事業所名	グループホーム ここから新森公園
訪問調査日	平成21年10月16日
評価確定日	平成21年11月19日
評価機関名	NPO法人 ナルク福祉調査センター

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みません。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	2793100054
法人名	株式会社 カームネスライフ
事業所名	グループホーム ここから新森公園
所在地	大阪府大阪市旭区新森4丁目14番8号 (電話) 06-6955-4111

評価機関名	NPO法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町二丁目1番8号親和ビル402号		
訪問調査日	平成21年10月16日	評価確定日	平成21年11月19日

【情報提供票より】(21年9月15日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 20 年 11 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	13 人	常勤	10 人, 非常勤 3 人, 常勤換算 10,9 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨 造り		
	2 階建ての	1 階 ~	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	69,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷 金	有(円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(300,000 円) 無	有りの場合 償却の有無	有(5年)	
食材料費	朝食	300 円	昼食	500 円
	夕食	600 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要(9月15日現在)

利用者人数	13 名	男性	5 名	女性	8 名
要介護1	6 名	要介護2	2 名		
要介護3	3 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 74.6 歳	最低	65 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人清翠会牧病院、医療法人くろだ歯科
---------	----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地下鉄今里筋線新森古市駅より徒歩5分、幹線道路を入った静かな住宅街にある。駐車場跡地に新築2階建て2ユニットのホームとして、平成20年11月開設された。母体の株式会社カームネスライフは平成15年6月設立され介護関連事業を幅広く展開している。管理者は介護老人保健施設に勤務ののち平成20年9月入社、法人のグループホームで研修後開設に関わり、笑顔で過せるゆっくり寄り添う介護をされている。ADLの低下が見られる利用者を積極的に受け入れて、2ユニット合わせた勤務シフトで柔軟に対応し家族の安心感がある。法人合同の勉強会や実務研修に職員が順次参加し、サービスの質を向上を図っている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回が初めての外部評価である。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価は今回が最初である。評価を実施する意義を理解して職員と話し合いながら自己評価に取り組み管理者が取り纏めた。自己評価を活かして日頃の介護について再確認し、改善に結びつけている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	地域包括支援センター、自治会長、利用者、家族が出席して2ヶ月に1回開催している。ホームの現状や行事などの報告をして意見や要望をだして貰い、議事録を作成して職員で話し合い、サービスの質の向上に役立っている。自治会長には運営推進会議の地域住民代表について参加を呼びかけ増員を要請する予定である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の来訪時には利用者の健康状態や暮らしぶりについて報告している。随時手書きした手紙を送り、電話連絡もしている。運営推進会議や家族の来訪の機会を活かして、話し易い雰囲気をつくり意見や要望を聞いて記録し、職員で話し合い運営に反映させている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	自治会に加入して、地区主催の月1回のふれあい喫茶に参加したり、区民センターで開催される吹奏楽発表会や地区主催の盆踊りに出かけている。日常の散歩や買物で近隣住民と顔なじみになり、挨拶を交わして交流に努めている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「地域の中で共に暮らす入居者様と職員が笑顔で過せるように、サービスを提供いたします。」として、事業所独自の理念を作っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	各ユニットに、法人の理念と一緒に掲示して、常に目にするにより職員が認識して共有し、利用者の立場に立ったケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に加入し、月1回のふれあい喫茶に参加したり、区民センターで開催される吹奏楽の発表会や、地区の盆踊りに行っている。買物や散歩で近隣住民と挨拶を交わし交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価は今回が最初である。評価を実施する意義を理解して職員と話し合いながら自己評価に取り組み管理者が取り纏めた。自己評価を活かして日頃の介護について再確認し、改善に結びつけている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、自治会長、利用者、家族が出席して2ヶ月に1回開催している。ホームの現状や行事などの報告をして意見や要望を貰っている。自治会長に地域住民代表について参加を呼びかけ増員を要請する予定である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	事故報告や感染症対策などについて電話や直接訪問して相談や連絡をしている。運営上の諸事情について幅広く連携している。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族の来訪時には利用者の健康状態や暮らしぶりを報告している。随時手書きした手紙を送り、電話連絡もしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や家族の来訪の機会を活かして、話し易い雰囲気をつくり意見や要望を聞いて、職員で話し合い運営に反映させている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設して約1年が経過した段階で、職員の法人内移動が1回のみである。職員との親睦会や意見交換の場をつくり相談や要望に対応し離職を最小限に抑える努力をしている。利用者が全職員と馴染めるよう柔軟な勤務をシフトにしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修は、法人の事業所合同の研修会や勉強会に職員が順次参加し、相互に実習に向いて交流を図っている。外部研修は、資格取得講座や介護技術関連の講座を受講出来るように支援している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人の近隣グループホームと交流して情報交換をしている。旭区には4ヶ所のグループホームがあるが、交流の機会が殆どない。	○	区担当者や地域包括支援センターに働きかけて、区内の同業者の連絡会を立ち上げ交流の機会を持つ取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に時間をかけて希望や要望を聞いて利用者や家族と相談しながら、見学で昼食やおやつを食べたりレクリエーションに参加するなど、希望により体験入居も取り入れ徐々に馴染めるよう安心と納得でサービスを利用するようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家事を手伝って貰ったり、知っていることを教えて貰うなどして人生の先輩として尊重して支え合い、楽しみと喜びを共にする寄り添う介護を心がけている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ADLが低下するなか、家族から以前の暮らし方の情報やフェイスシートを参考にして、日々接しながら利用者の行動や表情から意向を汲み取るように努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者の残された能力を把握しながら、利用者や家族の要望や課題を踏まえて関係者が協議し介護計画を作成して、家族に説明し承認を得ている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直し期間は原則3ヶ月とし、利用者に変化が生じた時は、その都度必要な関係者と話し合い、実態に対応した新たな介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の状況に応じて、通院介助や利用者の希望する外出先への送迎など、柔軟に対応している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	家族や利用者とは相談して協力医療機関をかかりつけ医として、内科は週1回、歯科は必要に応じて往診して貰っている。入居前のかかりつけ医の継続受診も支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重要事項説明書に別途添付した書類により、入居時に「重度化した場合における対応の指針」について説明し、方針を共有して同意を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねないよう、居室に入る時の声かけや、利用者への対応について注意し、職員に徹底するようにしている。個人情報厳重に保管し、慎重な取り扱いをしている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の健康状態やその人らしいペースに合わせて、希望を聞きながらその日その日を気持ちよく過せるよう支援している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材業者の献立による食材で、利用者が出来ることで手伝って貰いながら、食事作り、盛付、配膳、片付けをしている。職員は同じ食卓について食事介助や食事の進み具合に気を配っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回を基本とし、入浴時間や回数は利用者の希望に応じている。体調不良や入浴拒否の場合は、足湯やシャワー浴、清拭で対応している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	心身の状態による個人差が大きく、日々の暮らしの中で一人ひとりのペースに合わせ、出来ることをする役割や楽しみごとの支援を心がけている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近くの公園の散歩やスーパーへの買物や外食、地域の行事への参加など、出来るだけ戸外に出かけるようにしている。弁当を持って車で鶴見緑地公園へ遠足にも行っている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアに取り組み、日中玄関は施錠していない。ユニット入口はロックしていないがセンサーを取り付けている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の指導で年2回、少数の利用者も参加して消火訓練や避難訓練を実施している。災害時の地域住民の避難協力体制がない。	○	防災マニュアルを整備して水や消耗品を備蓄し、利用者が何時でも避難出来るよう、職員だけの誘導の限界を踏まえて、自治会に避難協力を得る取り組みが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
		○栄養摂取や水分確保の支援			
28	77	食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量を記録して不足のないよう確認している。利用者の状態に応じ個別の食事形体で、摂取出来るよう工夫している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
		○居心地のよい共用空間づくり			
29	81	共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全館バリアフリーで、広くゆったりしている。食堂兼居間は明るく3つの食卓を工夫して配置し、テレビの前にはソファを置いて寛げる。廊下の壁に手作りした大きなカレンダーを貼り、行事の写真や額縁入りの絵を飾り、椅子を置いて休めるようにしている。		
		○居心地よく過ごせる居室の配慮			
30	83	居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は花の名前つけ、絵と文字の四角い表示がある。利用者は使い慣れた家具を持ち込んで写真や小物を飾り、その人らしい暮らしをしている。		